

(和訳：「南方週末」2013年8月1日)

日本大使館員は環境手当をもらっているか？

外国企業はなぜ中国の環境規制を遵守しないことがあるのか？

中国の大気観測データは正確か？

昨今の中国の環境保護事件と反原発運動如何？

中日両国が対立している時に、環境協力を如何に進めるか？

在中国日本国大使館唯一の環境保護担当官が、離任に当たり回顧

日中環境協力は逆境の中を進む

岡崎雄太書記官による自伝

「南方週末」汪韜記者が整理

2013年7月19日夜10時、岡崎雄太氏は、まだ夕食をとっていない。在中国日本国大使館の200名余りの職員の中で彼は唯一の環境保護担当であり、トキ保護から大気汚染まで、岡崎氏の中国での業務は公害、自然保護、気候変動及び原子力安全の4分野に及ぶ。残業は常だが、彼にとっては「人民への服務」であり、大いに達成感がある。

4人分の仕事をしていても、彼は楽しくて疲れを感じない。彼にとって、北京は大気汚染を除けば暮らしやすく、「祖父も父もかつて中国で暮らしていた」。2010年から現在までの三年の任期が到来し、8月に岡崎氏は日本に帰国するが、「私は必ず戻ってくる」と確信している。

岡崎氏が中国で過ごした3年間は、まさに中国の環境問題が突発した時期であった。日本の環境保全の専門家の目の中で、中国はどのような環境問題に直面し、どのような矛盾が存在しているのだろうか？

最も関心を集めるのは大気汚染

2013年初頭は多忙を極めた。中国在住の日本人からの最も多い相談は、大気汚染からどのように身体を守るかであった。今年2月、3月に、大使館は各地で16回にわたる大気汚染から健康を守るための説明会を開催し、最も多い日には1日3回開催したこともある。2012年はわずか1回であった。

多くの質問があり、ある日本企業の代表は、大気汚染がこれほど厳しいために日本に避難すべきかと質問した。ある男性は、中国では鼻毛の手入れをすべきだろうかとの質問をした。私たちの医師は、手入れをするかどうかは個人の問題だが、身体を守るためには鼻毛は多ければ多いほどよいだろうと回答した。

中国に来たばかりの時は、メディアからの取材は1ヶ月に1回にも及ばなかったが、今は連日取材がある。プレッシャーが最も大きかったのは、「現在北京で生活する人たちは、まるで動物実験のようなものだ」という私の発言が報道されたことだ。当時、ある日本人留学生から、大気汚染が自分の子猫の健康にどのような影響を及ぼすかという質問があり、政府が環境基準を定める際には、まず動物実験を行うものだと説明したことによるものだ。

私の講演では、PM2.5とは何か、どのように身体を守るかといったことを紹介したが、その日の報道はすべて「動物実験」となってしまう、日本大使館が中国を強く批判したと誤解され、とても辛かった。しかし、この一件を通じ、日本大使館に環境専門の職員がいると広く知られ、多くの中国人が日本はどのように大気汚染を克服したかとたずねてくるようになった。私は東京に対して、日中両国間の協力をさらに展開すべきであると提案し、4月には北京で日中大気汚染防止セミナーを開催した。

最近、他国の大使館と交流する際によく出る話題は、あなたの国の大使館ではマスクや空気清浄機の購入に対する補助があるか、中国では手当を多くもらえるか、という質問だ。もし他の国にこのような優遇措置があれば、私たちも東京に対してニーズを訴えることができる。現在、日本大使館のすべての部屋に空気清浄機が設置されているが、環境汚染に対する手当はない。

実は、多くの人から北京市の観測データは正確かという質問が来る。私はアメリカ大使館と話をしたことがあるが、彼らと北京市環境局が使用している機器は概ね同じで、両者の観測データを比べてみると基本的に違いはない。

その後、大気汚染がひどいため多くの外国人が北京を離れているとの報道も出てきた。ある人が私に、あなたも北京から避難するつもりはあるかとたずねてきたので、それはないと答えた。私は大気汚染の説明会で在留邦人に対し、私たちの自宅は中国の人たちの家よりも広く、自家用車を持っている人も多いことから、私たちは被害者であると同時に加害者でもあり、クーラーをなるべく使わないこと、バスに乗ったり友人と車の相乗りをすること等呼びかけた。

### 環境保護は日中関係の「正のエネルギー」

日中関係の大きな状況は、環境保護の仕事にも影響を及ぼし、関係が緊張していた時期には1ヶ月間の会議が全て延期になってしまった。しかし、環境保護は日中関係を緩和する「正のエネルギー」であり、日中関係が緊張している時期にも、環境協力はマイナスの影響を受けるべきではない。

2011年3月11日の東日本大震災と福島原発事故による放射能漏れは、とてもつらい出来事だったが、日中関係に積極的な効果をもたらした。多くの中国の人々から、どうすれば日本の被災地に募金ができるか、と問い合わせがあり、

とても感動した。

中国に着任した当初、中国からの越境汚染についての交渉が仕事の一部であり、黄砂、大気汚染に加えて日本に漂着する医療廃棄物の問題もあった。しかし、3月11日の地震以後、中国の友人たちは、汚染された大気や水が中国に影響を及ぼすのではないかと心配した。中国政府は日本の最新のデータを必要としており、私たちは関連する資料を速やかに翻訳して中国側に提供した。中国は日本の状況を注視するようになり、これまでの立場が入れ替わり、強いプレッシャーがあった。このようなプレッシャーを受ける感覚がどのようなものであるかを初めて知った。それまで私たちは、日本の環境保全の取組は素晴らしいと考えていたが、世界的に見ても非常に深刻な問題を起こしてしまったことを真摯に反省すべきだ。

2012年に、日本の環境大臣が深センの大亜湾原発を視察した。中国の発電所の幹部が彼らの原発は安全で福島のような事故は起こらないと説明したら、大臣のメンツが潰れてしまうと私は心配したが、大臣は私に対し、メンツは関係なく、原子力安全分野での日中協力を強化することで事故を防ぐことが重要であり、率直に私たちの反省を共有すべきだと言った。

私は、両国間にいかなる問題があろうとも、相手に対して指摘し、お互いに率直に話し合うべきだと確信している。

環境が変われば物事も変化する、環境保護もしかり

以前は、日本政府による中国での発電所、地下鉄等の大規模な援助プロジェクトが多かった。現在は、中国側と日本の地方自治体、企業、環境NGOとの交流が多くなっている。中国政府との会議はこれまでは多くが非公開だったが、現在は多くのセミナーに企業が参加できる。

私の重要な仕事の一つは、日本企業が中国の環境保護関連法を遵守するよう促すことだ。2012年、環境NGOがアップル社のサプライチェーンを調査した際、日本企業数社が汚染水を違法に垂れ流していることが発覚し、最も深刻だったのは湖北省武漢市の日本企業だった。その会社は環境NGOに対しずっと回答をせずだったが、我々が同社の総経理と連絡をとると、同社は数千万元を投入して汚染された河川を修復し、新たな配水管を建設した。環境NGOも同社の積極的な取組を高く評価した。

外国企業が中国の法規を守らないことには、いくつかの原因がありうる。例えば、地方政府の執行力の問題。中国企業が汚染水を垂れ流しても制約を受けないため、外国企業が真面目に費用を負担するとコストが高くなってしまいうために垂れ流しをしてしまうかもしれない。意識の問題もある。例えば、私が東京に住んでいた時はごみ分別の意識が高かったが、北京の自宅にはごみ箱が一

種類しかなく、環境保護の意識は低くなってしまった。

今年1月スモッグが深刻になり、北京市は100余りの企業に対して突然、操業停止を求めた。その中には日本のTOTO社も含まれ、2日間の操業停止による経済損失は少なくなかった。その他の日本企業からも、なぜ操業停止をしなければならないかと問い合わせがあり、北京、上海、天津等の多くの自治体が汚染の深刻な日に実施すべき対応計画を発表していることを説明した。この件について私が中国政府と意見交換した際、応急措置については、企業が事前に準備ができるよう、排出量がどれだけの企業が対象となるのかといった情報や基準を公開すべきだと提案した。

反核燃料は中国の原発の転換点になりうる

多くの人々が中国の環境官僚を批判し、外国人も中国の環境はひどいと批評している。しかし私は、すべての国の環境保護部門の職員は、環境保護のために努力していると信じている。どうして私たちの思うようにいかないかと言えば、他の政府部門や企業が反対し、彼らの力は私たちよりも大きいためだ。中国の環境保護部門の職員と食事をした際、私たちも苦労しているが皆さんもご苦労さまですと言ってねぎらったことがある。

中国の環境問題はますます突出している。過去3年の中国の環境保護問題で最も深刻なのは大気汚染のスモッグで、すべての人の仕事や生活に影響を与えているが、中国の新たな指導者は、様々な汚染防止措置に全力で取り組んでいる。2番目は、PX工場反対等の環境保護デモ。私の日本メディアの友人は、「愛国無罪、環境無罪」と報道した。

最近注目しているのは、広東省での反核燃料デモ。数年後に振り返ると、今回のデモは中国の原子力発電発展の転換点になるかもしれない。1度のデモで原子力発電所を閉鎖できるならば、今後各地で同様のパターンが繰り返され、今後の中国のエネルギー計画全体に影響を与えるかも知れない。最近、PXはどこでも反対にあっているが、実はPXや電力は国民生活に必要なのだ。このようなプロジェクトを進めるに当たっては、市民参加をさらに進めることが必要だ。

私は、今後も中国に留まりたいと考えているが、任期が到来してしまった。私の後任には、2つの提案がある。まず、毎日大使館でパソコンに向かっていては中国を理解することはできないので、北京や上海といった大都市だけでなく、中国の農村も訪れるべきだ。次に、中国の人々と直接顔を合わせてたくさん交流することだ。私はいつもタクシーに乗ると、昔は空気はきれいだったか、運転していて交通による汚染をどう思うかといったおしゃべりをしている。このようにして、本当の中国を理解することができるだろう。